

認知的葛藤 指導案

授業日 1月 27日 (月)

授業者 小川 藤井 山崎

1 単元名

「心理学用語について知ろう」

2 展開

(1) 本時のねらい

日常生活や学習場面において、より多面的な見方や内発的な動機づけを生むことができる認知的葛藤について理解する。

(2) 展開の構想

認知的葛藤についてのいくつかの身近な例を通して、葛藤が生まれることで、意欲が身につくことを体験し、認知的葛藤について理解する。

(3) 準備するもの

粉末のコーヒーが溶けている水溶液が入ったビーカー、ワークシート、筒、ペン、事例の資料。

(3) 展開

時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応	◎留意点 ◇評価
5分	●実験1『音に関する』を行う。 ○「筒を通して聞こえる音と筒なしで聞こえる音の違いはあるか」予想を立ててその理由を発表する。 A: 筒から伝わる方の声が大きい。なぜなら筒の方から伝わる声が散漫しないから。 B: 同じくらい。なぜなら・・・。 ○実験をして、結果を予想と比較する。 ○結果の理由を知りたいかどうかをワークシートに書き込む。 ○結果の理由の説明を聞く。	◎生徒がやりたいと思えるような発問を心がける。 ◎実験結果が予想通りだったかを確認させ、その理由の説明を聞きたいかどうかを確認する。
7分	●実験2「コーヒーの溶け方」を行う。 ○「前日の晩に、粉末のコーヒーを水の中に入れ、数時間たった時の水溶液の状態はどうか」予想を立てて、その理由を発表する。 A: 何もしていないからコーヒーは溶けない。 B: コーヒーは沈殿する。なぜなら・・・。 ○実験をして、結果を予想と比較する。 ○結果の理由を知りたいかどうかをワークシートに書き込む。	◎理由のない解答がでないように自分の予想が間違えてもいいことを伝えて立てさせる。 ◎予想される様々な選択肢を用意して、子どもの状況によって提示する。 ◎実験結果が予想通りだったかを確認させる。

	トに書き込む。 ○結果の理由の説明を聞く。	かを確認させ、その理由の説明を聞きたいかどうかを確認する。
8 分	○認知的葛藤についての説明を聞いて理解する。 ・実験 1 と 2 からの葛藤の違いを発表する。 ・一般検証されている認知的葛藤の説明を聞く。 ・日常生活や学習場面で認知葛藤が生かされている場面を考え、生活に活かすためにどうすべきか考える。	◎実験 1 と 2 を通して、生徒から発言された言葉や葛藤を利用した認知的葛藤の説明をし、生徒の理解を深める。 ◎グラフなどを用いて一般化された検証を提示、説明する。 ◎葛藤が小さくても大きくても意欲がわきにくいことを説明する。

参考文献 北富真治 1998 学習活動に及ぼす認知的葛藤の強さの影響 上越教育大学